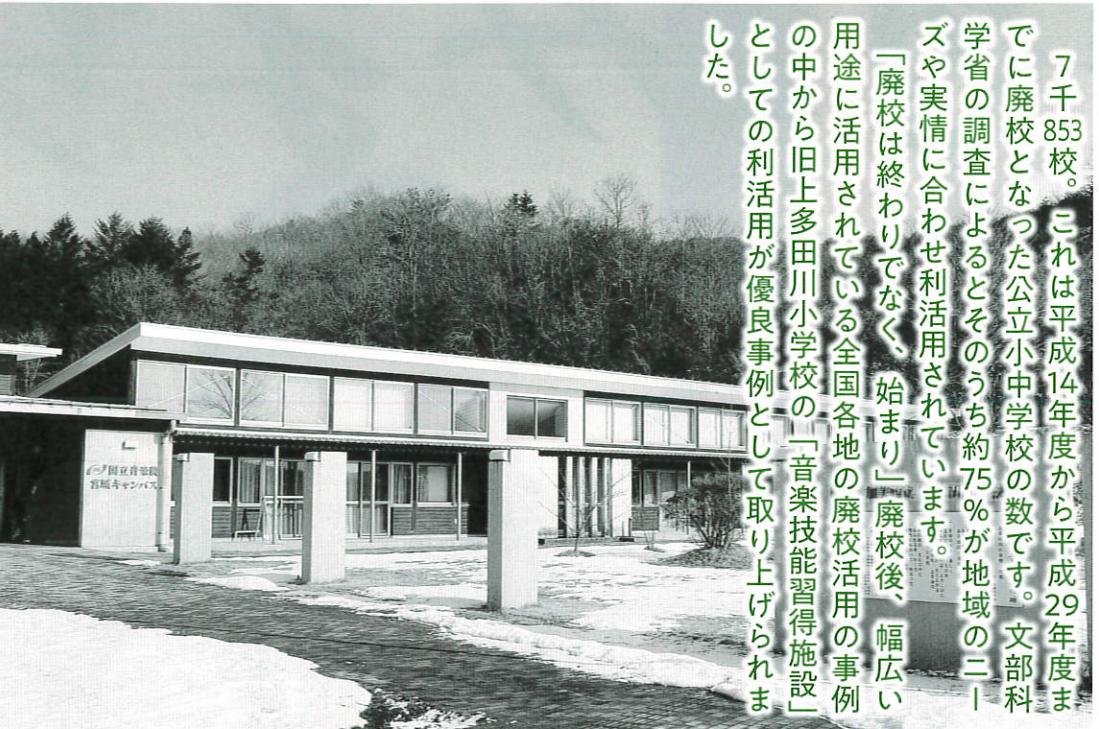


旧上多田川小学校が廃校利用の成功事例30に

文部科学省「みんなの廃校プロジェクト」

7千853校。これは平成14年度から平成29年度までに廃校となつた公立小中学校の数です。文部科学省の調査によるとそのうち約75%が地域のニーズや実情に合わせ利活用されています。

「廃校は終わりでなく、始まり」廃校後、幅広い用途に活用されている全国各地の廃校活用の事例の中から旧上多田川小学校の「音楽技能習得施設」としての利活用が優良事例として取り上げられました。

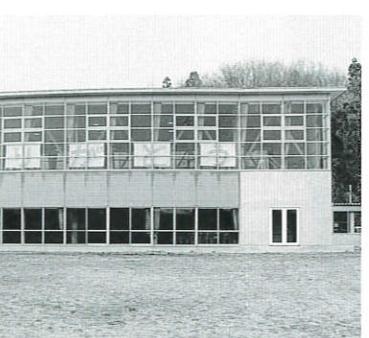


新たな教育の場として生まれ変わった旧上多田川小学校

平成30年度の町内小中学校の生徒・児童数は、1千656名で平成14年度から748名の減少となっています。小学校については平成25年度に上多田川小学校が、平成30年度には旭小学校が長い歴史に幕を閉じています。

旧上多田川小学校は、廃校後2年にわたり、地域住民を中心とした「跡地等利活用検討委員会」を組織し、「福祉施設」「交流・教育施設」「コミュニケーション施設」などへの利活用について報告書を作成しました。

一方で、バッハホールに象徴される「音楽のまち」を切り口に若い世代の町外流出を防ぎ、外部から招き入れたいという考え方から、「音楽仕事を事に」をテーマとした教育施設としての利活用を進め、音楽



小学校の思い出残す体育館「上小ありがとう」

学校は、地域に愛され、その地域の歴史や文化を守り続けてきたシンボルです。国立音楽院宮城キャンパス開校時には、地域の思いや提案を尊重し、キャンパス内の至ると

地域と支えあいながら共に歩む

ころに当時の面影を残しています。

また地域の方々は、今も変わらず、夏の草刈りや冬の除雪など学生たちを多方面から支援しています。

学生たちも音楽を通じて地域との交流を積極的に行っており、旧上多田川小学校は地域に支えられ、また地域のシンボルとして共に歩んでいます。



地域の方々を招待して学びの成果を発表

6年ぶりに体育館で行われた入学式

4月14日、国立音楽院宮城キャンパスは3度目の入学式を迎えました。音楽に夢を抱いた38名が足を踏み入れたのは、校歌や校章など小学校の思い出が刻まれた体育館。廃校以来6年ぶりの入学式です。

式には、地域住民の方々も参加し、10代から50代の新入生を温かく迎え入れました。新納理事長からの「地域の支えがあつて音楽が学べることに感謝し人間力を養つてほしい」と式辞が代読され、猪股町長は「宮城キャンパスが地域のよりどころとなるよう

新たな挑戦に期待を膨らませる新入生



校歌・校章思い出よみがえる体育館で6年ぶりの入学式

廃校は終わりでなく、始まり

積極的に交流してほしい」と激励しました。

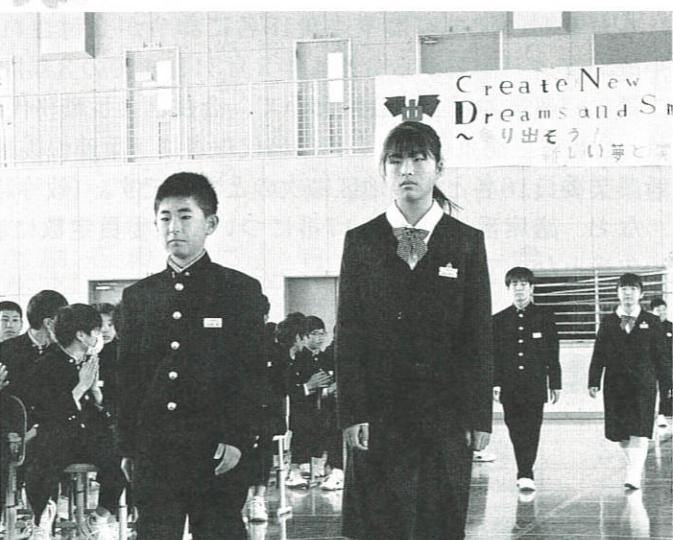
新入生を代表して、我妻明音さんは「音楽は人と人を繋ぐもの。たくさんの人に音楽の楽しさを伝えたい」と希望に溢れた宣誓を行いました。

新たな施設として生まれ変わった小学校。これを「ゴールとするのではなく、これからも地域と町が歩調を合わせて様々な課題に向き合い、取り組んでいくことが未来への地域活性化に繋がっています。

各校の新入学児童・生徒

学校名	男	女	計
中新田小学校	36	36	72
鳴瀬小学校	10	10	20
広原小学校	14	7	21
東小野田小学校	12	13	25
西小野田小学校	4	6	10
鹿原小学校	1	1	2
宮崎小学校	8	8	16
賀美石小学校	3	4	7
小学校計	88	85	173
中新田中学校	47	54	101
小野田中学校	34	20	54
宮崎中学校	15	18	33
中学校計	96	92	188
小・中学校計	184	177	361

夢と希望を胸に新たなステージへ 町内の小・中学校に361人の新入生



期待を胸に堂々の入場（小野田中）



ユーモアあふれる式辞で新入生を迎えた石塚校長（宮崎小）

なりました。石塚靖明校長は式辞の中で、①よく見る「ゾウ」②よく聞く「ゾウ」③がんばる「ゾウ」の3つの「ゾウ」について象の絵を使いながらわかりやすく新入生に語りかけました。

式が終り、教室に戻つたでは、新たな友人たちとの初対面に恥じらいを見せながらも、「児童」から「生徒」へと新入生たちは、名前を呼ぶれると笑顔で元気に返事をし、教科書を受け取つて、明日から学校生活に胸を膨らませていました。

各中学校で行われた入学式では、新たな友人たちとの初対面に恥じらいを見せながらも、「児童」から「生徒」へと新入生たちは、名前を呼ぶれると笑顔で元気に返事をし、教科書を受け取つて、明日から学校生活に胸を膨らませていました。